

〔医療法人晋真会 ベリタス病院〕

研修の特徴と内容

1. 当院の概要

所在地	川西市新田1丁目2番23号		
交通機関	阪急電車川西能勢口駅から能勢電鉄に乗り換え 「多田駅」下車徒歩7分		
病床数	199床		
標榜診療科目	内科・消化器内科・循環器内科・呼吸器内科・一般外科・肛門科・整形外科・ 小児科脳神経外科・産婦人科・放射線科・麻酔科・リハビリテーション科		
患者数	入院患者数	1日平均	153.5人（平成27年）
	外来患者数	1日平均	361.4人（　　〃　　）
	救急搬送件数	年間	2,181件（　　〃　　）
	救急取扱件数	年間	4,652件（　　〃　　）

2. 当院の特徴

当院のある川西市は、兵庫県の東部、大阪府との県境にあり、北の丹波山系から南へ流れる猪名川に沿って両脇を山に囲まれた南北に長い地形で、大阪のベッドタウンとして発展。奥の猪名川町、能勢町、豊能町から大阪市内、京阪神中心部への人の流れの中継点であります。川西市の人口は約16万人、半径5キロメートル以内の診療圏人口、約20万人、半径2キロメートル以内で約6万人。救急医療については地形的にも、より北部の猪名川町、豊能、能勢町（約7万人）含めて診療圏となっています。

当院は、1979年に開設されてから、ベリタス病院の基本理念を忠実に実践し着実に地域の皆様に愛される医療を提供してまいりました。良質な医療の提供を通して、地域の皆様が安心して必要なときに、適切な医療を受けられる病院こそがベリタス病院の地域における役割と認識しています。

3. 研修の特徴

研修到達目標・研修理念のもとに当院では、病院から地域へ、地域から病院へ【継続医療】を実現し、この地域での医療サービスの中心となり、基本的に地元で完結できる医療サービスの提供を目指しています。初期研修医のトレーニングに大切なコモン・ディージーズの修練ができる事や、診療科間の垣根をはずした横断的な連携ができる事などが、特徴になります。一般的に我々のような第一線病院で、現場、現場での実施診療研修はもちろんのこと、その地域、地域でのニーズとその病院の役割、他の病院（診療所含めて）との役割分担の実際を勉強してもらうことも研修の大きな目標です。

〔ベリタス病院 産婦人科〕

【研修の特徴と内容】

産科については正常分娩を中心に年間500例程度の症例があり、妊婦検診、分娩の経過、分娩時のプライマリ・ケアや帝王切開などについての研修をすることができる。

婦人科については子宮筋腫や子宮内膜症などの良性疾患を中心とした診療を行っており、特に腹腔鏡や子宮鏡などの内視鏡下手術に力を入れている。また不妊症診療も行っており、体外受精などの高度生殖医療についての研修も受けることができる。

【経験する事柄】

内診や子宮頸部細胞診、子宮内膜細胞診の仕方などの基礎的事項の習得

妊娠診断、異常妊娠との鑑別

異常妊娠（子宮外妊娠、切迫流産、切迫早産）の診断、治療

妊娠経過の観察（外来での妊婦検診、産科エコー診断）

分娩の観察、診断、経験（内診、胎児心拍モニタリングの読映、会陰切開縫合）

帝王切開の第一助手の経験

婦人科超音波検査（経膈エコー）の経験と診断

婦人科疾患の画像診断（CT、MRIなど）、良悪性の鑑別

子宮卵管造影、子宮鏡検査の経験と診断

内視鏡下手術（子宮筋腫、卵巣嚢腫、子宮内膜症）の経験

不妊症診療の診断、治療

指導医等

産婦人科主任部長：横山 裕司 医 長：向井 ゆかり

医 長：池内 理江 医 員：富山 陽子

研修実施責任者

主任部長：横山 裕司

〔ベリタス病院 小児科〕

【研修の特徴と内容】

小児を取り巻く複雑な環境のもと小児医療の充実が求められています。

一方で、新生児診断学において“not doing well”何となく元気がない、という徴候名があります。とりわけ、新生児領域においては、それが顕著であります。患児の全身状態から、五感を駆使してその状態の把握に努めなければなりません。それ故、いかに正常な状態を診ているかが重要となってきます。当院では、出生数が多く、新生児の診察を数多く経験することが可能です。また、外来患者数も多く、小児の初期診療を数多く経験できると思います。救急医療をしている病院ではありませんが小児医療を行うのに必要となる正常新生児（小児）や小児の初期診療に関しては十分に経験できると考えます。

プライマリ・ケア医として、小児医療の現場を経験し必要な初期の知識と技術を修得し、また、患児と保護者との信頼関係の構築・コミュニケーションができるようにすることも習得します。

【教育に関する行事】

	月	火	水	木	金	土
午 前	外 来 新生児回診 病棟回診	外 来 新生児回診 病棟回診	外 来 新生児回診 病棟回診	外 来 新生児回診 病棟回診	外 来 新生児回診 病棟回診	外 来 新生児回診 病棟回診
14:00～	アレルギー外来	1ヶ月健診		予防接種	フォローアップ 外来 (心エコー) ※13:30～	
15:00～		予防接種		予防接種		

指導医等

小児科主任部長：井上 岳彦 医 長：石井 良樹

研修実施責任者

小児科主任部長：井上 岳彦

〔ベリタス病院 整形外科〕

【研修の特徴と内容】

整形外科は多岐にわたる運動器疾患に対する治療を行っている。骨折、靭帯、腱損傷などの外傷は整形外科のみならず外科系診療においては最も頻繁に遭遇するものであり、これらに対し適切な初期治療を身につけておくことは非常に有益である。診断から手術等の治療、その後の経過の予測までトータルな計画が求められ、実際に治療者が一貫してその全経過に携わることが多い。言い換えるとそれが整形外科の魅力のひとつでもある。また現代の高齢社会において運動器疾患治療の必要性は今後ますます高まると考えられる。

我々の研修方針は以上述べた内容に対し、以下の具体的理念をもって、望むことを基本としている。

- ① 実際に多くの臨床の場に参加し診療を行い、基本的診断、手技をマスターするのはもちろんのこと、診療ひとつひとつに自覚と責任をもってあたる基本的姿勢を身につける。
- ② 整形外科はチーム医療であり指導医、他の医療従事者とのコミュニケーションを密にし、協調性を身につける。
- ③ 疾患のみにとらわれることなく、全人医療に心がける。
- ④ 医学者として謙虚に真理を追究する姿勢を養う。

【教育に関する行事】

(必ず指導医とペアで望む)

月	午前	外来診療	午後	手術
火	午前	外来診療	午後	回診 カンファレンス(手術)
水	午前	回診 手術	午後	手術
木	午前	外来診療	午後	検討会、抄読会
金	午前	検査	午後	手術
土	午前	外来診療		

【研修の実際】

- ① 問診、診察手技、画像診断法(単純X線像、CT, MRI像)を身につける。
- ② 一般的外傷、疾患に対する標準的な治療方針の立て方を会得する。
- ③ 整形外科検査(関節造影、脊髄造影、神経根造影、椎間板造影など)の手技、読影法を身につける。
- ④ 小外科基本的処置、ギプス包帯法、基本的手術手技の会得。

指導医等

院長：辻村 知行 整形外科主任部長：柳川 哲司 部長：服部 匡次
医長：森本 佳秀 医長：森本 佳秀

研修実地責任者

院長：辻村 知行

〔ベリタス病院 循環器科〕

【研修の特徴と内容】

循環器救急疾患は致死の状態に陥る可能性が高く、発症後速やかに対処する必要がある。地域で唯一の緊急対応可能な施設として、可能なかぎり救急の受け入れを行い治療に取り組んでいる。

循環器領域は内科の一領域であり、一般内科の知識（特に生活習慣病）の習得はもちろんのこと、患者診察に際し問診・理学所見・採血結果や非観血検査から本疾患に必要な精査・治療を考察し提供するプロセスを踏むことの重要性について指導する。

他の地域と同様に高齢化が進んでおり、患者層として高齢者が多く、このため他科との連携が欠かせない。医師はチーム医療の一員かつリーダーであることを意識し、スタッフとの良好な関係を構築する必要性を理解する必要がある。患者の大半は人生の先輩であることを常に忘れてはならない。接遇面での指導も重視して行っている。

研修の集大成として地方会レベルの学会発表を目標とする。

【研修可能な疾患】

急性／慢性心不全、虚血性心疾患、末梢動脈疾患、腎疾患（腎性高血圧症、慢性腎臓病）、深部静脈血栓症、不整脈（徐脈／頻脈）、心筋症、弁膜症、大動脈疾患（保存的加療適応疾患のみ）、生活習慣病（高血圧症・脂質異常症・糖尿病など）、急性循環不全、神経調節性失神など、循環器領域のほぼ全領域

【非観血検査について】

心エコー図（経胸壁／経食道）、頸動脈エコー図、腎動脈エコー図、末梢動脈エコー図、末梢静脈エコー図、ABI、マスター／エルゴメータ負荷試験、ホルター心電図、睡眠時無呼吸検査、Head up tilt test など

【観血検査・治療について】

月曜日から金曜日まで毎日行っている。

1. 虚血性心疾患（冠動脈造影検査、経皮的冠動脈形成術）
 2. 末梢動脈疾患（末梢動脈造影検査、経皮的末梢動脈形成術）
 3. 腎動脈疾患（二次性高血圧症に対して経皮的腎動脈形成術）
 4. 肺血栓塞栓症／深部静脈血栓症（一時的あるいは永久型下大動脈フィルター留置術）
 5. 不整脈（心臓電気生理検査、ペースメーカー移植術、植込み型ループレコーダ留置術、カテーテル・アブレーション（心房細動を除く））
- ※ 急性心筋梗塞症・高度徐脈・頻脈発作・急性心筋炎・急性肺血栓塞栓症・急性下肢動脈血栓症・敗血症性ショックなど重篤な緊急症例に対しては、上記手技に加えて緊急ペーシング法、薬物的／電氣的徐細動、大動脈内バルーンポンピング法、経皮的心肺補助装置、持続的血液濾過透析療法を必要に応じて施行している。

指導医等

循環器科主任部長：辻本 充 部長：羽田 健紀

研修実施責任者

循環器科主任部長：辻本 充